

牧師室から (2023.4.23)

ロシアの侵攻によるウクライナでの戦争が1年を過ぎている。ウクライナとロシアの人々はもちろん、全世界の人々が、この悲惨な戦争の終息を願っている日々である。

今戦争は過ぎ去った歴史の記録や昔話ではない、間近な現実として私たちを囲んでいるような危機感さえある。そのようなこの頃、心に打たれる良い本に出会った。マイケル・モーバーゴ著の『兵士ピースフル』である。会報「えびな」にも推薦図書として紹介されているので、ぜひ読んでみてほしい。

憎むべき相手は敵だけではなく、と語る本書は事実をもとにしたものである。その内容に驚きと悲しみに襲われる気持ちであった。人間世界の闇を掘り出している無残な戦争の物語であるが、その展開が実に美しい。

父親を失った悲しみの中でも、母親の愛の中で明るく成長する子どもたち、障害を持っている一人の兄弟との自然な絆が、読む人の心を温かく豊かにしてくれる。貧しさの中でも優しさを失うことなく、その思いを負けない生き方は、価値観の違いを持っている身近な人々との衝突を起こさせ、横物にされてしまう。しかし、そのような子どもたちを支えていく母親の愛と勇気に心打たれる。

悲しい結末に、人間が持っている根本的な弱さや限界、そこから来る闇を深く考えさせられるが、その中でも家族に勇気づけられた人間愛は読み終わった後にもずっと心に響く。戦争の最中を見ている私たちに必読の傑作であると思う。

(鈴木善姫牧師)